

やまなし未来会議 会議録 (平成30年度第2回会議)

- 日 時 平成30年11月21日(水) 午後1時30分～3時30分
- 場 所 山梨県庁別館3階「正庁」
- 出席者
 - ・ 委 員 (50音順)
岡本委員、佐々木委員、角南委員、田中委員、辻村委員、土屋委員、
長江委員、萩原委員、古屋委員、榎田委員、武藤委員、望月委員、山下委員
 - ・ 県 側
後藤知事(議長)、宮澤公営企業管理者、市川教育長、平賀総合政策部長、
立川県民生活部長、岡リニア交通局長、鈴木総務部長、神宮司防災局次長、
小島福祉保健部長、井出森林環境部長、島田林務長、市川エネルギー局長、
佐野産業労働部長、弦間観光部長、三井農政部長、垣下県土整備部長、
(事務局：総合政策部) 藤森理事、小林次長、末木次長、上野政策企画課長、
石寺リニア環境未来都市推進室長、齊藤政策主幹
- 会議次第
 1. 開 会
 2. 知事あいさつ
 3. 議 事
 - リニア環境未来都市の創造について
 - (1) リニア駅周辺整備基本計画について
 - (2) リニア環境未来都市の創造に向けて
 4. 閉 会
- 内 容
 1. 開会
司会：平賀総合政策部長
 2. 知事あいさつ(要旨)
(後藤知事)
皆さん大変お忙しい中、本年度第2回のやまなし未来会議に参加いただき、心からお礼申し上げたいと思う。
また皆様方におかれては、師走に向けて大変お忙しいことと思うが、本日は様々な御意見を賜りながら、有意義な会にして参りたい。
周囲の山々も紅葉が色づき、実りの秋を迎えている。
県民の皆様方に、様々な事業や、各地域産業界で仕事されている中で、これまでの成果を「実感」していただけるよう、今までも県政運営に取り組んで参りましたし、今後

も皆様方の御理解と御支援を賜りながら努力をして参りたいと思っている。

さて、皆様方も御案内のとおり、この数年間で特に人口減少対策として取り組んで参りました産前産後ケアセンターや、病児病後児保育につきましては、平成28・29年度連続して全国知事会において優秀政策を受賞することができた。

更に、市町村と連携し、三歳未満児第二子以降の保育料無償化については、全国で初めてということで、事業を展開している。

様々な地域資源や魅力というものが、山梨にあるというのは言うまでもない。

これを県民の皆様方に、まずはどう御理解いただくのか。

そして、それをまとめあげ、県外・海外に情報発信をして山梨の底力を見せていくかということが、観光政策にも当然つながることであり、また移住定住という山梨の魅力づくりにも資すると考えている。

いずれにしても、今まで以上に、今後は各自治体、また、産業界の皆様方との連携を強化しながら、山梨県の魅力向上に資する政策を、県庁一丸になって取り組んでいくということを、この場をお借りしてお約束申し上げたい。

今日のテーマは、リニア環境未来都市の創造についてである。

言うまでもなく、リニアについて、現計画では2027年、9年後には山梨県に中間駅が設置・開業し、東京～品川～名古屋間が40分足らずで接続する。

今までなかった大きな変化が起こることになるが、この変化を、山梨県全体にどのように、産業また暮らしも含めてプラスに転じるかについて、本年度は基本構想計画の検討委員会において、地域の代表の方々、更には産業界の方々、有識者の方々、多くの皆様方と検討を進めている。

今日は、その中間報告を委員の皆様方にまず御説明し、多様な御意見を賜りながら、よりよい形に、この年度内にまとめあげていく所存である。

これまでの、委員の皆様方の専門的な御経験・知識だけでなく、それを超えた、大きな実り多い議論がされるよう、私からもお願い申し上げ、繰り返しになるが、本当にお忙しい中未来会議に御参加いただくことに心からお礼を申し上げながら、冒頭の主催者としての挨拶にさせていただきたい。

3. 議事

<議長：後藤知事>

(1) リニア駅周辺整備基本計画について

議題(1)(2)について、資料により事務局から説明し、次のとおり意見交換を行った。

説明：石寺リニア環境未来都市推進室長

(後藤知事)

それではまず、リニア駅周辺整備基本計画に中間とりまとめについて、委員の先生方から御意見、御質問等をお受けしたい。

(岡本委員)

リニア駅周辺整備に関して、大切な点が二つある。一つは、いかに山梨の駅で降りて

もらうか、降りる理由を作るかという点。もう一つは、羽田空港から1時間となるので、国内だけでなく海外のマーケットも視野に入れる必要があるという点である。

個人的には、「医療と健康」というキーワードが良いのではないかと考えている。例えば、海外からの富裕層の医療ツーリズムを受け入れることができる、高度で専門的な医療機関をリニア駅の近隣に設置する、あるいは既にある医療機関をそのようなスタイルにしたらどうか。また、交通結節機能と公共交通ネットワークについて説明されたが、健康という点に絡めて、移動手段の一つに自転車を加えてみたらどうか。例えば、リニア駅から県内各地を安心して自転車で巡ることができる道路の整備、あるいはリニア駅周辺から小瀬スポーツ公園のエリアまで、自転車やジョギングができるコースを整備すれば、健康志向の強い外国人に受けるのではないか。

「医療と健康」というキーワードが良いと考える理由は、山梨県の環境の良さにある。具体的には、きれいな水や空気、癒される景観、豊かな温泉、世界トップクラスの健康寿命などである。健康寿命に関して、日本は世界の中でトップクラスであり、その日本の中で山梨がトップクラスである。このような環境面の強みに、リニア開通により首都圏や海外からのアクセスの良さという強み加わる。「医療と健康」は、このような山梨の強みを生かすことができる分野であり、山梨県と大変相性が良いと思う。また、先ほど説明があった「目指すべき姿」の中にある観光交流、定住、産業とも大変相性が良い。例えば観光交流という点において、医療ツーリズムや、あるいは自転車などが、インバウンドに受ける。移住という点において、当然であるが、医療の充実や健康寿命の長さは、移住定住促進において大きな動機付けとなり、魅力となる。産業や研究開発に関しても、医療関連は相性が良い。更に、医療・健康は山梨県民にとってもプラスとなる。以上により、駅周辺に関しては、「医療と健康」というキーワードで、何らかの整備を進めていくことを提案する。

(佐々木委員)

私は、いただいた資料を少しビジネス的な観点から、社内の従業員の意見も幅広く聞く中で、仮にリニアが通った時、我々は商売をどうするかという視点で考えてみた。

岡本委員と重なるが、やはり山梨県駅で降車する理由を明確に付けてあげることが、商売上重要であろう。

その中で、前回もコメントさせていただいたが、やはり全国で初めてとか、日本で初めてとか、若しくは他所に比べて断トツに突き抜けて一番というところが効果的、キーワードだという話になった。

もう一つ、これもまた岡本委員と重なるが、東京の隣であるということ、これからリニアが通れば、完全なハブとしての地方都市として生きていける可能性が広がるということである。実証実験都市ということで、日本国内で行われる実証実験を、全て甲府に引込んでしまうというのはどうだろうか。

関係する法律であるとか、ルールは様々なものがあるが、それは先生方にお任せするとして、キーワードとして考えていくと、例えば一例として、観光や仕事、アグリ、定住、学習、交通網、官庁などのキーワードが社内に出された。その中の一つである、観光というキーワードで見ると、この中にレンタカーがある。

そうすると、ただレンタカー会社を誘致するだけでは全く面白くなく、どことも一緒。そうであれば、例えば日本車のラインナップは全て揃う、更にそこに、例えばベンツ、ゲレンデバーゲンからミニまで、全ての車がラインナップされているというような。

ただレンタカーを置くのではなく、世界中のあらゆる車が甲府のリニア駅に行けば、あって乗り放題である、選べるというような、そういうカーシェアを行ってみるとか。

また、インバウンドが2030年には6000万人、15兆円というような記事を読んだ。それをみんなで見て、今世界で見ると、Airbnb（エアビーアンドビー）やUber（ウーバー）など、日本では若干規制がかかってくると思うが、実際にテストをしたがっている外国のスタートアップ企業というのは山ほどあると思う。日本の企業だけではなく、外国の企業が日本でテストをするための環境を提供してあげられる。それがリニアの駅の周辺にできる。そうすると、羽田空港に降り立った外国人は、まず甲府を目指す。その後、大阪に行ったり東京に行ったり京都に行ったりするための、まずスタートのハブにしてしまうという考え方ができる。

それと、先ほど半導体の装置の話が出たが、研究開発に関する質問を少しお客様にもしてみた。すると、研究開発に特化することは非常に賛成で、開発が生まれるということは、新技術とか新産業への発展が生まれる。

ただし、これからの日本というか世界は、大量に物も要らないし、数も要らない。

やはり質とか、少量とか、物からコトとか、などのキーワードが出てくると思うので、大きな施設ではなく、スペシャルな設備が整っている小さなラボであるとか、あそこに行けばあらゆる研究者がフリーで揃っている。要は、先生方に無償で施設を提供する。先生方からの、我々への見返りは、勉強で返していただく。そうすると、学生を教えるということも返していただくことで、優秀な学生が集まる。更にそこは、メガ工場は不況になると畳むが、研究開発は多分畳まない。であるから不況に強い。

ということで、仕事というキーワードでいくと、そんな施設を造っていくことが、ポイントになるのではないか。

甲府で降車する理由、それと、実証実験都市として、日本で初めて、リニアの駅を活用するというようなことを考えたらいかがだろうか。というアイデアが出てきた。

(角南委員)

私の方からは、産業振興機能について、少しコメントさせていただく。

これができる今から10年、あるいは20年後、そしてその先の更に10年を考えると、ここに書かれている機能は本当に果たされるのか。今、これはあってもおかしくなく、今、これを作ったとしても、おそらく日本で一番という施設には、なかなかならないのではないかと思う。

ということは、先ほどの佐々木委員の話で言うと、もしここが世界で魅力的な場であるということを考えるのであれば、今この時点で一番でないものが、20年後30年後にどうしたらいいのか、ということを考えなければいけないと思っている。

この基本計画の中間取りまとめにおいて、いくつか挙がっている柏の話、それからナレッジキャピタルの大阪の話であるが、これも現在非常にうまくいっていて、私も面白い取り組みだと思っている。

また、Society 5.0について、これから10年くらいサンドボックスでプログラムを保護しながら、こういうものを実証してくる。自動走行、ドローン、AIなどが描かれているが、そういったコンセプトのものが未来志向である、これから産業振興をしていかなければいけない機能の部分にない。ビッグデータの時代におけるサイバーセキュリティの問題など、データに対する管理の問題ということ、ハードウェアとして整備していく必要も出てくるのかということを見ると、今は分かるが、もう少し工夫して考えたほうがよい。

例えば、インキュベーションセンターも前あるものと今あるものと、中の施設が全く違う。昔は1人1社ごと、個別に部屋に入っていたが、今は全部オープンでやっている。これが10年後、もしかしたらまた変わるかもしれない。

そのため、新しい創造をしていく現場というものを、もう少しフレキシブルに考えたほうがよい。計画に入れてしまうと、そのとおりのものを作ってしまう可能性があるので、そのあたりは柔軟にもう少し考えたら良いかと思う。

(田中委員)

私どもは、ジュエリー業界と関連して考えてみた。この機能の中については、山梨ブランドPRとか、あとメイド・イン・ジャパンということのPRを付けていただきたいと思う。

現状、ジュエリー業界では積極的に海外販売を行っており、今までは香港・中国がメインであったが、タイやドバイ、シンガポールとか中東や東南アジアにも皆で展示会に出展をしたり、世界への販路を拡大している。それに伴い多くの海外バイヤーが甲府を訪れるようになってきた。

当初は、外に売りに行くのが主であったが、今までは海外バイヤーが(県内)各社に定期的に訪れて、デザインや買い付けをしている。また、産地の工場に見学に来たり、各会社とネットTVでダイレクトに商品を売ったりとかしている。

様々なことが、これまでと変化して行われてきているが、2027年リニアによる移動の短縮、移動時間の短縮で、これまで以上に海外との距離が近くなり、大体羽田で一泊していたものが、羽田からダイレクトに甲府に来て、私たちの会社で長い商談が可能になるとか、回数も多くなり、より濃厚な商談ができてくるかと思っている。

一方、これからの業界では、国内外に幅広くお客様を持って対応していくことで、私たち自身の産業を守って維持していくことが重要なのではないかと思う。

スタッフの方も、やはり外国人がどんどん多くなってきていて、2027年には職人だったり、営業だったり、企画デザイン、知的分野のデザインの方でも多くなっていくかと思うので、各社の力になり、業界の私達も技術や工夫、品質、デザインなど、自社の強みをしっかり発揮して、海外のお客様の多様なニーズに合わせていきたいし、そのための努力が必要だと思っている。

その中で、やはりリニアの駅では、山梨ブランドのPRとか、メイド・イン・ジャパンのPRを行ったら良いと思うので、駅に着いたら、従来にはない、少しイメージがつかないが、最新の技術や発想で、ジュエリーの街だとしっかりわかるものがあって欲しいと思うし、ジュエリーにはシーズンがあり、送る人の思いや送られる人の思いがある。

そういった日本らしい、シーズンイベントにおけるジュエリーのストーリーとか、冠婚葬祭を含め、ジュエリーが果たす役割を、ライフスタイルの中で伝えられたらと思う。

少し考えてみたのだが、ストーリーとは違うけれど、例えば駅にスクリーンがあり、そこに立てば、3Dでパールのティアラなどが頭に載せられて、その画像がそのあとスマートフォンに飛んできて、帰る外国人のいい思い出になれば良い。そういった意味で、山梨ブランドをPRできたら良いかと思った。

(辻村委員)

私は情報発信についてお話をしたい。品川から25分で山梨駅に着いたら、県内各地に急いで移動する人もいると思うが、山梨の良さを活かすには、駅に着いたらゆったりと過ごし、目的地にゆっくり移動する「スロートリップ」を実現してはどうか。そのために、リニアの出発地である、品川駅と名古屋駅の構内に、山梨県内の情報を発信するカウンターを設け、そこで乗客のスマホに山梨の観光をワンストップで計画し・予約できるアプリを入れてもらう。乗客がリニアに乗っている間に、アプリで自分のやりたいこと、行きたいところを入力すると、その日の天候や交通渋滞情報なども踏まえて、最適なコースを示し、予約もできるようにする。山梨県駅に着いた時にはプランはほぼ決まっていて、駅のインフォメーションカウンターで、AI搭載のロボットコンシェルジュや山梨を熟知したガイド役が、スマホの情報をもとに旅行の手配をきめ細かくおこない、そこから一泊二日のゆったりとした旅が始まるということを考えてはどうか。

もうひとつはリニアの駅に空港のようなVIPゲートやVIPラウンジを設けるべきだ。海外の富裕層だけでなく、国内のゆとりのある方々もゆったり過ごせるスペースを確保することが利用につながる。単なる情報発信ではなく、山梨県駅に降りた人が県内でゆったり過ごすための環境を品川駅、名古屋駅という旅の出発点も結んで整備すべきだ。

(土屋委員)

私は、このリニアの駅については、できるだけシンプルに、交通の拠点としての機能、それからインフォメーションとしての機能に特化して、やはり考えていくべきではないかと考えている。

新宿にしても、日比谷にしても、大阪にしても、同じ時期に開発した駅に降り立つと、どこでも同じような印象を受ける。同じようなショップがあり、同じような機能がある。それを私は、とてもリニアの駅について懸念していて、降りたら山梨なのか山梨でなくてもよいのかというような、第一印象を持たれてしまう危険性というのがやはりあると思う。

山梨の駅で降りる理由について、先ほどからずっと各委員がおっしゃっているが、やはり降りる理由付けというのが、最も大事である。私は、東京とか羽田から短い時間で行けて、でもそこに行かなければ感動できない体験ということを、たくさんの経験ができるということが、山梨の魅力であると考えている。

具体的には、言葉が足りないと思うが、例えば峡東地区の果樹畑の景色であるとか、雄大な富士山の姿であるとか、八ヶ岳であるとか温泉であるとか。そこへ行かなければ

体験できない、感動できないことがすごく沢山ある。このリニアの駅ができることで、それぞれの地域とリニアの駅を30分なり1時間なりの圏内をつなぐということ、交通の拠点、そちらのそれぞれの観光地にお客様を運ぶというか、交通拠点的な機能というのを第一に考えていくべきではないかなと思う。

その上で、やはり情報ということは必要だろうから、皆様のおっしゃっているようなインフォメーションの機能というのは非常に大事だと思う。

くれぐれも、私どもが心配しているのは、箱物を持って余してしまい、何というか、後の世代に負の遺産のようなものを残さないように、とても慎重に考えて、シンプルかつリーズナブルな開発をされることを望む。

(山下委員)

全体的な話は、委員の先生方がいろいろ話をされたので、私は、我々基礎自治体としての、少し小さな話をさせていただければと思う。

今、土屋委員からお話があったように、2ページのところに交通ネットワークの整備ということが明記されている、30分圏域というのがあるので、是非ともこういったものを実現していただきたいというのが、我々基礎自治体の考え方である。

特に、私どもの笛吹市というところは石和温泉駅という駅を持っていて、ある方は、「リニアから降りたら、山梨環状道路を通過して広瀬インターで降りれば、甲府駅より石和温泉駅のほうが近くなるのではないかな。」このようなことを、言う方もいる。

先ほどから、ハブという言葉が多く出ているようであるが、やはり本当にハブを目指していくのであれば、そういうことを是非とも頭の中に置きながら。特に、富士五湖・富士河口湖地域は、結局、本当にリニアを利用できるのかという状態に今あるわけなので、是非とも交通網の整備、特に富士河口湖方面、山梨県が一つの観光地となっていくために、その部分の交通網を、いかにリニア駅から富士河口湖駅方面へ送り込んでいくかというのが大きな課題になってくるのではないかなと思う。

暗に、何を言いたいかお分かりだと思うが、そういうことだと思っている。

それと、先ほども土屋委員が言っていたが、何か大分、コンベンションのような言葉が書かれているが、近くにはアイメッセもあるので、本当にコンベンション施設を作るのか。私は少し、これを見させていただいて、大丈夫かなという思いがある。

機能ということであるから、必ずしもアイメッセのようなものを作るのかどうか、そこは決まっているわけではないと思うが。アイメッセの方も、稼働率がどうなっているのかよくは知らないが、それほど本当に今、そこにコンベンション機能が必要なのか、その辺もよく検討していただきながら進めていただけたらと思う。

(望月委員)

私も、山下市長の言ったことと同じであり、先ほどの土屋委員がおっしゃったことと同じ気持ちである。

駅の周りを山梨の中心にするのか。今、甲府市でも空洞化、ドーナツ化現象で寂れてきている。

身延から30分圏域というと、恐らく旧中富のあたりぐらい。その先の身延とか南部

とか行くともっとかかるので、やはり交通のネットワークというところを、私どもも最重要の課題として考えている。

高速バスが、今静岡の方から52号を通っている。いずれ中部横断自動車道が、明年度中に、南部の方が全線開通するので、そういうところを使いながら、例えば高速道路のバスについては、絶対リニア駅へまず立ち寄ってもらってから甲府駅のほうに行ってもらおうとか、そのような工夫を今後していただきたいと思う。

ハコモノも良いが、どこを発展させるかという意味合いが少し見えてこない。

私には、リニア駅の周辺だけ何となく発展をさせたいというように見えてしまう。できれば、山梨県全体の発展のためには、さっき言った、シンプルなものでも私はいいと思う。そこからの交通網がしっかりできていれば、それぞれ甲府市の方へもいきます、中央市・身延の方、笛吹市の方にも行く、そういうことを、できれば私は力を入れて欲しいと、郊外の町の者として思った。

(武藤委員)

私からは、他の委員の発言と少し重なる部分もあるかと思うが、やはりリニア駅、外から山梨県駅にきた方の移動ということ、よく考えていただく必要があると思っている。

それから、全体図の中で、パークアンドライドの駐車場があるが、これは山梨県内の方がリニアを利用して出かける時の駐車場になっているかと思う。

まあ、一定程度は必要であるが、駐車場であれば、そこにずっと車が停まっているだけになってしまう。折角のリニア駅周辺の非常に利便性の高いところが、このままでいいのかという状況になり、何か少しもったいないという気がしている。

その左側の、スマートインターチェンジ、ここの具体的なところがまだ把握できていないが、スマートインターチェンジで降車させて、いろいろな方面に行くという機能としては非常に良いと思うが、やはり甲府駅に対してのアクセス、移動する場合には、今だと南口の方でというように見えたが、そうすると、どうやって甲府からバスとか、あるいは中央線であれば、どういうルートで行くのかというのが、なかなか見えなかったもので、やはり外から来られた方が、ここで全てを、宿泊をして何かいろいろやってまた帰るといった形では多分無いと思うので、来られた方がどう移動するかということ、少し考えていただくと良いかと思った。

それから、コンベンションの話は、少し私には分からないところがあるが、国際会議などは、場所が日本全国で誘致するときになかなか無い。それで、どうしても横浜とか、そういうところに限られてしまうというような話を聞いたことがある。ここで、その規模のものができるか分からないが、そういう規模の国際会議であれば、かなりの方がかなりの確率で来られて、またそういう方はいろいろ視察をされるので、コンベンションで会議をするだけでなく、海外の方をより呼び込むという意味でも、もう少し工夫していただくと良いかと思った。

それと、あともう一つであるが、防災の観点で、私は水害のリスクが少し心配になっている。なので、そういう場合に、何か防災としての拠点というか、当然外から来られている観光客などは、なかなか移動できなかつたりすると思われるので、そういう方が

一定期間、滞在していただけるような配慮ができる施設のような、そちらへの配慮も、またぜひお願いしたい。

(榎田委員)

今日は、郡内から出てきているが、こちらに向かう前に、少し試しにアイメッセ、リニアの駅ができるあたりに寄ってみた。所要時間として1時間半くらいかかる。

先ほど、山下委員がおっしゃられたように、富士・東部地域の人がリニアを使うかというところについて考えながら、こちらの方面に向かってきた。

まず、この資料を読んで、アクセスの部分はすごく気になっていて、駅周辺のことは、今の観光から具体的になかなか想像ができない。

どちらかといえば、やはり山梨のリニアを使って、降りてくださる方たちを、どう郡内の方に連れてこられるのかなと考えていた。

山梨に来るといって、観光の点で見ると、駅の周辺よりも、山梨県内の各地、北杜のほうであったり峡東であったり、そして、私の住んでいる郡内。特に富士山を見に来られる方が沢山いると思う。羽田からリニアで来られるとなれば、そういった目的でいらっしゃる方もたくさんいると思うので、そういった方達をスムーズに、富士五湖地域の方に連れてきてもらえるような交通網、そういったものがあると良いのではないかと思った。

あと、駅前のことについて。リニア駅が山梨の顔として考えた時に、山梨というのが、私自身は、都会的な洗練されたというイメージがなくて、やはり東京の隣の行きやすい田舎というのが、山梨のイメージとしてはとても良いのではないか。

そういった、要は山梨らしさが打ち出せるような、駅前の開発というものができたら、来た人たちが非常に満足できる場所になるのではないかと思った。

(古屋委員)

資料に書かれていることと重なることもあるが、少し駅周辺について私が期待する施策を述べさせていただく。都会に住んでいる子ども、子育て世代にとって、あるいは定年後の方達にとって、移住したくなるような、また周辺に現在住んでいる方々にとっても、わくわくするであろう施設の建設、まちづくりを是非していただきたい。

私はよく、昔からの知り合いが住んでいる品川区大崎に行く。ソニーの工場があった頃は、本当に工場の町という感じがしたが、その後ソニーが撤退し、再開発された今、大崎がおしゃれな、素敵な、誰もが住みたくくなるような町になった。

それを見ていて、同じまちづくりが甲府でできるとは思わないが、山梨の自然や緑を生かしながら、現在都会で生活している人たちが、移住したくなるような施設、まちづくりを是非していただきたいと思う。

定年後の方たちに、山梨の移住を進めるためには、病院、金融機関、レストラン、コンビニ、スーパー等が入っているマンションあるいは地域があれば、理想だと思う。

私の友人が住んでいる東京では、マンションの地下にレストラン街、1階がコンビニと金融機関、2階に病院が入っている。その上が居住空間となっているが、そのマンションに私の年老いた母と一緒にいった時に、「私も歳を取ったらこういうマンションに

住みたい。全てここだけで済むよね」と話していた。

東京から、もし定年後の方を山梨に移住してきてもらうのであれば、そういう施設も必要なのではないかと思う。

(萩原委員)

大体今まで御発言があった内容と同じような感じであるが、せっかくなので少し申し上げると、結局のところ、リニアという交通手段が増えるということだと思う。

この、リニア駅周辺に、先ほどから話が出ている、資料3の2ページなんかを見ると、一つの行政区、まちをつくと。この中で、全てのことができてしまうというイメージに捉えられてしまうが、どちらかというと、リニアの駅から山梨県内にどのように人なりモノなりを運ぶことができるだろうか、という視点で少し考えるべきではないか。

そのための交通手段は何なのか。山梨の場合には、山梨の都会に住みたいから移住するという人はほぼいない訳で、やはり自然とか環境とかに憧れていらっしゃると思われる。観光も同様だと思うから、そういったものを崩さずに、クリーンなエネルギーという言葉もあるので、そういった内容での計画というか、町の組み立て。先ほどもあったが、全てここに来れば、何でも揃うというところまで本当に必要かどうか。確かに、住んでいる人にとっては便利だろうが、あくまでも、多くの方が利用するのは、その駅から更に山梨のどこかに移動する、ということを考えてときに、一体何があればいいのかという視点が大切かと思う。

(長江委員)

私は、今回初めての参加であるので、今更何を言っているのかというような話になるかもしれないが、せっかくの機会なので、3点ほど申し上げたい。重なる部分があれば御容赦いただければと思う。

まず第1は、今回の中間取りまとめとして提示された、リニア駅周辺整備基本計画において、施設の導入機能として5つの機能が示されているが、基本計画の考え方に示しているように、それが「リニアの開業効果を県内全域に波及させる取り組みに関する方針」だとすれば、これは皆さんも先ほどから言われているように、5つの機能の中でやはり交通結節機能の充実を図ることが極めて重要ではないかと思う。

私も山梨に住み始めてから半年以上経ったが、リニア駅の二次交通に関する議論というのは、ややもすると甲府駅とのアクセスに関する議論が中心になりがちな印象を受ける。リニア駅を利用される方は、何も甲府の中心街に訪れることを目的にする方ばかりではないであろうし、むしろインバウンドを中心に、それ以外の目的の方が多いと考えておくべきだと思う。

開業効果を県内全域に波及させることに主眼を置くのであれば、リニア駅と県内主要観光地や産業集積地域との効率的、効果的な交通網を、しかも今後10年20年の、先ほども話しておられたが、様々な技術発展、自動運転などを前提としたうえで、どのように構築していくのかということをしっかり考えていく必要があるかと思う。

併せて、その際には路線バスとか高速バスのものだけではなく、例えば東京駅や新宿駅から周辺観光地に数多くのはとバスなどが設定されているように、山梨のリニア駅

も、静岡や長野を含む魅力的な観光バスの発着拠点となるようなことも考えた方が良いのではないかと。

第2は、整備のコンセプトの中に、県民にとっても魅力的で賑わいをもたらすような機能を備えた空間を創出するとなっているが、今回提示されている導入機能で、県民にとって魅力的な機能が何なのかと、思っているところがある。私が、この地に住んで、県民の方が日常的に数多く集まっているところというのは某ショッピングセンターではないと思うし、あとは何かのイベントがあると、その場所に集まるという感じかと思う。

リニア駅周辺で、定期的にイベントを開催するという訳にはなかなかいかないだろうから、県民の賑わいということで考えると、県民の方々が日常的に何となく出かけてみようかなというような機能が、やはり必要なのではないかと。

何もショッピングセンターをつくれればいいと申し上げている訳ではないが、暑かろうが寒かろうが、あるいは雨だろうが雪だろうが、快適に過ごせる空間が必要なのではないか。もしそれが難しいのだとすると、何も県民までターゲットに入れて、何か考えるというよりは、国内外から当県へ訪れる方の拠点ということで、ターゲットを絞ってみるのも一案かと思った訳である。

第3は、先ほど少し話があった、自然災害への備えということで、先日日本銀行甲府支店において、山梨大学の先生に防災に関する講演を行っていただいた。その際に、今年の夏に西日本で発生したような豪雨が山梨周辺で生じると、リニア駅周辺は水害に見舞われる可能性が十分に高いということをおっしゃっておられた。

企業が新たに事業所あるいは工場を設ける際は、その地域の事業や輸送コストなど、様々な面を検討するわけであるが、近年は万一災害が発生した場合に十分な対応が可能か、といった面も重要視されるようになってきているという状況である。

こうした点を踏まえると、リニア駅周辺に関しても一定の確率で災害が発生する前提のもと、万一の場合でも被害が極小化されるように、整備を進めていく必要があるのではないかと、思ったところである。

<議長：後藤知事>

(2) リニア環境未来都市の創造に向けて

(後藤知事)

委員の先生方からは、2番目にお尋ねをしようと思っていた、近郊も含めた未来都市の創造という分野についても御指摘・御意見を賜った。

いろいろな御意見があると思うし、最後の方に萩原委員、長江委員からもお話をいただいたように、少し総花すぎるのではないかと、趣旨の御発言もあったが、もっともであると思う。

それでは、この中間とりまとめというものをベースにしながら、これからの最終報告を受けて絞り込み、優先順位を付けたりという作業をしていく。御指摘大変にありがたい。

山下委員、望月委員からも、交通ネットワークの部分について、整備をきちんとしながら対応するというのは、そのとおりだと思っている。

そういう意味では、資料1の2ページにもある、全県への波及として、交通ネットワークの整備というものは、今の計画的にほぼ順調に進んでいるので、これをしっかり9年後に向けて、以前の未来会議において県土整備部長が回答したが、3分の2を超えるエリアが30分圏で対応できるということと併せて取り組んで行きたい。

多分、先ほど山下委員からの御意見は、新々御坂トンネルの話ではないだろうか。それについては、既に笛吹市、富士河口湖町と現地調査を本年度対応していて、現在どういう位置付けにするのかということ県土整備部と関係する市町とが、いろいろな意見交換をしているので、環状線の問題と併せてしっかりと連携して対応させていただきたいと思う。

いずれについても、他の委員の皆様、佐々木委員、角南委員、田中委員、辻本委員、土屋委員、いろいろな御指摘、そのとおりで思っているのですが、今いただいた御意見をしっかり踏まえながら、最終報告に向けて更に議論をしていきたいと思っている。

冒頭申し上げたように、2番目の課題と1番目の問題の提起が、私どもの少し説明不足であったかもしれないが、駅近郊も含めた新しい玄関口ということで、決して今の中央線の甲府駅をないがしろにするとか、それぞれの拠点とのきちんとしたネットワークを設けないとか、そういうことでは全くない。このリニアという新しい玄関口を含め、これからの交流の可能性、更には産業創出等、更に御意見を後半の部分でいただければと思う。

(萩原委員)

先ほどの続きであるが、リニアの駅で降りて、そこからどのように移動するか。その移動手段は、先ほど申し上げたが、移動の目的ですね。

移動した先、ここは27市町村それぞれ特色のある様々な環境なり事業内容ということをしていっているので、ただそれぞれが全く同じことをしていたのであれば、大変恐縮であるが競争するだけの話になってしまう。やはり役割というか、自分たちの行政の特色を生かし、わが町ではこれに特化した、山梨一の素晴らしいものをPRする、おらの村ではこういうものだ、というようなことを産み育てていただき、それを行政として、そしてまたリニアの駅から来た方々にもきちんとお伝えできるような、そんなシステムを作っただけならありがたいと思う。もちろん、観光で来ていただく方だけではなく、定住というようなことで、あるいは通勤のために、いわゆるベッドタウンと言うか、そういう形で来られる人たちのことも含め、どういったことがその近隣でできるのかというのを、具体的にはよく分からないが、視点としては、全ての地域で、同じことをしながら呼び込むということではなく、やはりその特徴を生かしていただく。

大切なのは、行政がしっかりやるのはもちろんであるが、そこに今お住まいの方たちが、地域社会の一員として、ここの地域に来て頂きたいという心を持って、様々な活動に加わってくるとするのが大切なのではないかと思う。

(古屋委員)

先ほどの発言と重なってしまうが、既存の観光地としての富士・北部地域に関するアクセス整備が大変重要ではないかと思った。

そして、山梨県全域でも、交通網の拡充を積極的に行っていくことによって、生活道路としても利用でき、山梨県の通勤や人の動きが追加されるのではないかと考えている。

十分な交通網を整備することによって、リニア駅周辺に多くの人が集まるのではないかと考えるので、よろしくお願ひしたい。

それと、私は女性団体の代表として出てきているので、先ほどの佐々木委員が会社の皆さんを集めて少しリニアの話をされたのと同じく、私も友人達を少し集めて、この資料を見せた訳ではないが、どう思つか話をしたところ、インキュベーションルームって何？コワーキングスペースって何？ラボ、それ何？皆さんからそういう質問された。

何となくは分かるし、検討段階ではこういう言葉をもちろん使ってもいいと思うが、是非一般県民の皆さんに計画をお伝えする段階では、こういう言葉をあと少し分かりやすい言葉に直して使っていただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

(後藤知事)

おっしゃるとおりである。先ほど申し上げたとおり、中間取りまとめとして御理解いただきたい。最終報告の時には、県民の皆様方にきちんとお伝えできるよう、今日の意見をふまえて整理をしていきたい。

(榎田委員)

人の定住というところを考えたときに、移住はとてもチャンスなことだと思う。

知り合いで、山梨県ではなく都内で、デザインなど少しくリエイティブ的な仕事をしている人が、やはり都内での生活では、自分のものづくりをする場所がないので違う場所でやっていて、そういったことで少し悩んでいたのが、実際に生産拠点を移したことで、より自分の製作だとか、生活環境が良くなったという話をこのあいだ聞いた。そういった面で、様々な能力を持った方が、山梨の方に来てくれる可能性を作ったら良いのではないだろうか。

現状、僕ら郡内の、富士吉田市の取り組みとして、ハタオリマチフェスティバルという、この10月に3回目のイベントを行った。そのフェスの大元は富士吉田市であるが、富士吉田市や北杜市の方にIターン・Uターンされた方や、富士吉田市の方の地域おこし協力隊で県外から入ってきた方、計3名が実行委員長として、イベントを企画して、本年3年目である。1万人以上来場があったイベントで、普段は閑散としている街が非常に盛り上がった。そういう将来性を感じるようなイベントになった。

確かに、イベントだけでは、一時的なものであるかもしれないが、ただ、今までできなかったことにトライできたということで、非常に大きな成果ではないかと考えている。これから、いろいろな才能を持った方が、山梨の方に移住してきてくれて、そういった方たちの力をうまく使っていくことで、今までの考え方とは違ったような取り組みが現れるのではないかと感じている。その点では、大きな可能性というものがこのスーパーメガリージョン構想の中にも書いてあるが、非常に自分自身が、実感している可能性である。

(武藤委員)

産業振興施設に研究開発機能を持たせるという、その部分に関しては非常に良いと思っているが、その場合そこで開発されたものを、きちんと県内の業者であるとか、産業に還元されるというところを、少し考えていただきたいと思う。

国母工業団地とか近くには山梨大学附属病院もあるので、単にそういうところのアクセスを密にするということだけでもないような気がするが、そこで開発されたものが山梨県内の産業にきちんと生かされ、それが更に輸出とかにつながっていくというような形で、山梨のリニア駅から技術が開発され、それが実際に実現し、更に世界に出て行く、というような場所として、是非この研究開発機能というのが実現すれば良い。

(望月委員)

私がイメージしたのは、実は空港。成田国際空港にしてもそうだし、中部国際空港、あの周辺というのは、民間がホテルのようなものは建てているが、あまり公的にいろいろ建てているようには見受けられない。

だから、リニア駅も一つの空港というような意味合いで考えれば、おのずと必要であれば、民間企業がホテルも建てるであろうし、お店みたいな、ショッピングモールも出るだろう。だからといって、のべつ幕無し何も計画なく民間に開発されても困るので、ある程度県としてのビジョンを作っておく中で、あとはPFIとかPPP、そういうものをうまく活用しながら、民間に何しろやらせる。県そのものが、膨大なお金をかけてやる必要はないのかなと思う。今私が言いたいのは、いわば空港のイメージである。

(山下委員)

勉強不足で申し訳ないが、このリニア環境未来都市という名前について。今資料をたくさん出していただいて、自然エネルギーや自然との共生ということが書いてあるが、なかなかやはり絵を描いていくのは難しい。

リニアがあって、そこからどのように環境を結びつけていくのか、ということであるが、実際なかなか本当に難しいのではないかと思う。なので、外すとは言わないが、本当にタイトルに合ったように、その環境に未来都市が向かっていけるような、そういうものを是非とも描いていただければと思う。

大変だと思うが頑張ってもらいたい。

(土屋委員)

先ほどの意見からもお分かりのように、どちらかというと私は新規施設、交通ですとか、情報以外のものに対しては、かなり後ろ向きな感覚を持っているので、恐縮である。

ただ、コンベンション施設というところで、アイメッセとの共存というか、アイメッセを生かしていくということであるとか、そのほかにもこの資料1の1ページの下の方を見ると、リニア駅の周りには既存の施設、工業団地、ビジネスパークなどがすでにたくさんあるが、これが10年後20年後、これを生かしたまちづくりということになった時に、必ず老朽化や、耐震問題など様々な問題がおそらく出てくるような気がしてならない。この、リニア環境未来都市に駅ができるのであれば、その周りの10年後20年後のある姿を想像し、何か手を打っていくということも、このプランの中に、考えに

入れてもいいのではないかと思う。

アイメッセの改修というカリフォルニアのようなことや、各工業団地の仕切り直しのようなことがあるのではないかと、私も勉強不足で非常にざっくりとした意見しか申し上げられないが、思っている。

それと、先ほど申し忘れたが、最近ワイナリーであるとか、峡東地区にお見えの方達には、かなりセレブ層のツアーというのが多くある。もうお金はいくら払ってもいいから、とにかく良いものを見せてほしい、良いものを体験させてほしい、というお客様がかなり増えてきているように思う。

民間のツアー会社でも、今のところ都内の企業が多いが、セレブ層にはもう成田に直接リムジンで迎えに行き、山梨まで直接お連れするようなツアー、四季島などの豪華列車等で旅行される方も同じかもしれないが、このような方達というのは、おそらく世界で、商業的に長い距離運転する初めてのリニアというものに対して、非常に興味を持たれると思うので、そういうVIP層の興味というのを山梨県駅に降ろす。そして、そこからお金をたくさん使っていただくというか、いろいろな体験をしていただくというような視点というの、あるのではないかなと思う。

(辻村委員)

移住の促進は本当に大事な課題だ。働き盛りの30代の家族がどんどん移り住んでくる山梨県になることに焦点をあてるべきだ。NHK甲府放送局は、先週金曜日に「ヤマナシ・クエスト」という地域番組枠で、「おめでとうございます 山梨です」という番組の第2弾を放送した。第1弾は「観光」をテーマに新宿駅でくじ引きをして、当たった人、実は箱の中身は全部当たりなのだが、を山梨のバス旅行に御招待するものだった。第2弾は、くじで山梨に連れてくる場所までは同じだが、テーマが「移住」で、実際に移住してきた方が営んでいるレストランに都会に住む家族等を案内し、大人同士、子ども同士それぞれ交流してもらった。リニアができて、企業誘致して、それで都会から人が来るのではなく、いまの山梨に充分人を惹きつける力はある。山梨県のポテンシャルを活かして、若い世代の移住を促進する施策を、県などの行政や民間が一体になってやっていただきたい。

(田中委員)

リニアの駅の近郊ということで、産業技術センターがここに出ているが、何か業界もそこと一緒に効果的に使えればと思っている。リニアが東京、名古屋とつながることで、私たちは東京にもお客さんがいて、関西にも名古屋にもお客さんがいる。山梨は中間地点なので、どちらに行くにも非常に便利になって、ビジネスがすごくスムーズに進むかと思う。

今度は、逆に産地力ということで、東京、名古屋の関西方面からも、また海外からもお客さんたちが、より気軽に産地山梨へ来て、打ち合わせとか新しい技術や生産工場を今以上に見に来て探していくと思う。

最近であるが、都内の大手ジェリーブランドが、甲府に検品拠点を作って、今後の生産量の確保や新しい工場を探しているようである。他にも、何年か前から数社同じよう

なブランドの拠点ができている。

ここで、産地の最新技術ということで、甲府ジュエリーフェアでも産業技術センターへのツアーを毎年募っている。非常に好評で、多くのバイヤーの方達が、産業技術センターの最新技術を見に行っている。

国内外のバイヤーや一般消費者へ、リニア駅近郊の産業技術センターの機能を拡大して、最新技術などを紹介したり、計画してもらうなどうまく活用できれば良いと思う。それと同時に、一般の人に向けて、一方でデザインセンターの方では、業界と一緒に技術やデザインといった面で、消費者の皆様のジュエリーの困りごとを解決する「ジュエリークリニック」のようなことができれば、甲府の町にあえて降りてくる、一般の方も意味が出てくるのではないかと思う。

そういった活動をすることにより、リニア駅に近い、近郊の施設と協働・協力することで、国内外に日本で唯一のジュエリー産地の情報発信をしっかりとしていくことができるようになるのではないかと思っている。

(角南委員)

皆さんの話を聞いていて、やはり共通しているのは、際立った意味での山梨らしさというものを、どのように考えるのかということだと思う。

例えば交通。新しい交通機関に隣接する形で、何かイノベーションを起こすというような発想だと、もう既に羽田空港から今度新しく橋がかかる。その反対側の川崎では、そこに頭脳拠点をつくるということで、サイバーダイナミクスなどロボティクス関係、それからデータベース関係の企業を誘致している。

そのため、羽田空港から歩いてそのような新しい拠点にも行けるといものが先行しているので、そういったところを一度見て、やはりそこに無いものを追求されるのが非常に重要かと思う。

クリエイティビティという観点からみると、あまりワクワク感というものはなく、非常に無機質な感じが確かにします。アクセスは最高ですが、そこにずっといて、何か創造して新しいものをつくれるような環境か？というのと、また少し違う。その反面、沖縄の自然の中、使わなくなり、シャッター街となった商店街を生かしたアクセラレーションプログラムというものがあり、ここはまた全く別の観点で非常に環境がいいというか、うまく生かした、創造を作る拠点として取り組みがあると思っている。

そういった少しタイプの違うものを少し参考にしながら、やはりここでしかできないものを行ってほしい。先ほどの話ではないが、東京にいとどこの駅を降りても同じなので、時々自分がどこにいるか分からなくなることがある。ここに降りた時に、やはり山梨らしさというところを際立たせる。しかも、世界から見て。

また、コンベンションについては、沖縄にコンベンションを作るなど、今整備の話が日本の中でもあるが、そもそも日本自体に国際会議を誘致するのが大変になってきている。中国などは国を挙げてやっているのだから、どれほどここに国際会議の誘致が期待できるか。やはりそれも、中国・上海などを見ていただいた上で、ここでしかできない国際会議とは何だろうか、ここで皆さんが良い会議を開催できたと思えるのはどこなのか。いろいろあるのかもしれないが、そこを少し際立たせて、戦略的に考えられたら良いと

思う。

最後にリニアの環境未来都市という言葉で、環境との共生などあるが、多分県民の皆さんには、これからどういうことをイメージしたらいいのか実感が湧かないと思う。

今、国ではSociety 5.0を実証してくれる地域を探している。

なかなか都会だと規制が沢山あり、新しいその取り組みができない。今、私が知っている限りでは、名古屋、愛知周辺がその候補として考えられているところもあるが、そういう意味では、例えばその中の農業とか、環境共生の部分を山梨の方で是非手を挙げていただきたい。

そして、こういった実証実験を誘致することによって、県民の人たちに、ここに書かれている新しいライフスタイルとはどういうものなのかを、少しでも実感していただき、そこからまた議論を進めていくというのも、重要なのかなと思う。

(佐々木委員)

先ほど、角南委員がおっしゃっていたところが、うちのメンバーからも出ていた。先ほど申し上げたのは2020年から30年、要は直近のイメージでどうだろうという話。それと、2030年から2050年って、要は我々が場合によってはもう生きていない、その先までやはり考えて動いていかないと、言い方は悪いが、乗車人員数が少なすぎる白石蔵王駅、岐阜羽島のような駅になってしまうイメージだと思う。

なので、皆さんがおっしゃっているように、コンベンションセンターではなく、常時稼働しなくてお金を生まないようなものを本当に作る必要があるのか。みなとみらいで会議していただいて、山梨に来ていただければ良い。そちら側を狙っていったほうがよほど現実的ではないかという話があった。

一つとして、その先を考えたとき、多分我々が想像している以上にWebで事が足りる時代になっているはずである。そうすると、Webで足りないことや満足できないこと、要は手に取りたいとか、そこの空気を吸いたいとか。多分、富士山の景色をWebで見ると、直接行って郡内のところ、河口湖から富士山を見て、肌で感じる。この違いは大きいと思う。だから、そこに行かなければならない、ということをキーワードに考えたほうが良いのではないか。

これも角南先生と重なるが、交通網というのを一つ取ったとき、先ほどの望月委員のように、身延には身延山があったり、いい環境がある。ただ、そこに行くにはやはり車か。ぐるっと回って1時間弱ぐらいやはりかかる。そんな中、弊社のお客様が、自動運転のところに半導体でトライしている。

GPSは大分良くなったが、でもやはり精度が薄いと行ったときに、インフラの中にICを埋め込む。信号機やガードレールにICを入れて、それに沿って自動車が走って行く。そのような実験を計画されているという話を聞いた。

Society 5.0に近いと思うが、そういったところ、例えば身延までレーンの一つ作って引いてしまう。渋滞もないし、車に座れば勝手にその車が運んでくれる。そういうようなものを呼び込んでしまうとか、2030年頃になると、今ドバイで空を飛んでいるが、もしかしたら、車が空を飛ぶようになっていると思う。

そうすると、その開発拠点・実験拠点を山梨に引き込んで、郡内までそのルートを

つくって飛ばしてしまう。富士山を自動運転の車に乗って見に行こう。というような発想を、リニアの駅を中心に考えたり、そういう中心にリニアの駅を据えて山梨県内どこにでもそれを張り巡らせる。可能性が広がるという話になる。

それともう1点だけ、どうしてもみんなが言ってくれと言っていたのは、やはり東京から近い機能を生かすべきだっていう話になり、東京から近い大いなる田舎と先ほど言われていたがそのとおりで、私、東京で10年近く生活して、ようやくこちらの生活にまた戻ってきたが、よくあの多い人の中で生活していたなあと思う。

今行くと人に酔う。でも当時は当たり前のように生活していた。でも今、韮崎で暮らして韮崎で仕事を始めて、やはり通う時間にはいろいろ物を考えられるし、お客様が来ると景色にまず一番喜んでくれる。我々の技術がどうこうよりも、景色に感激して契約してくれるということは、事実としてある話である。

なので、それを使わない手は、やはりないと思う。東京から近い、環境がいい、そうすると、将来を考えると子どもの世代をターゲットにするということを見ると、日本で一番子育てに特化した町を、そこらじゅうに作ってしまう。麻布に行かなくても、それと同じ教育が保育園で受けられ、先生達も、英語をしゃべれる人材が、東京に行って高いお金払って保育園に入らなくても、山梨に行けばそこにある。

一度に、フランス語も英語も全部そこで学べるなど、子どもに特化した施策を一つ打つというのもありではないかという話もあった。

(岡本委員)

皆様の意見を聞いて、2点感じたことがある。

1点は、コンベンションということに関してである。以前、観光の専門家からこのような話を聞いたことがある。国際的な会議を誘致する時に必要なのは、アクセスの良さと会場だけでは駄目である。会議に参加した方が、アフターファイブに楽しめる受け皿が周辺にあるかどうか。また、会議に来る方は御婦人や家族を連れて来ることも多い。御主人が会議に参加している間に、家族の方々が十分に満足できるだけのサービスを周辺地域で提供できるかがポイントとなる。コンベンションの誘致を考えるのであれば、会場だけではなく、周辺の受け皿づくりも考えながら進めないと難しいという印象を持っている。

もう1点について、来られた方をリニア駅周辺だけでなく、いかに山梨県内全域に散らすかということが大切だと思う。その際の移動手段として、自動運転の実験的な特区にするとか、CO₂を全く出さない電気自動車や燃料電池車のみを試みるとか、少し「尖ったこと」をして、日本の中で目立つようなことしたらどうかなと思う。また、各地域では、公共交通がなくて、住民の足がなく困っているという課題もある。リニア関連の交通網の整備が、地域住民の足(買い物や病院など)としても役に立てばいいと思う。そのような交通整備が望ましいと思う。

(長江委員)

皆さんのおっしゃっていることと、ほぼ同様だが、3点申し上げたいと思う。

1点目は、リニア環境未来都市を考えるにあたり、中央線の位置付けと、それを踏ま

えた甲府市中心街のあり方をどう考えるかということ、十分議論していく必要があるのではないかと思います。というのは、仮にリニア中央新幹線の利用客が増加して、その一方で中央線の特急列車の利用客が減少すれば、中央線は最悪の場合、普通電車だけになるという可能性が十分考えられる。従来も新幹線が開通した時に、在来線で同様のことがあり、そういうことは十分考えられるのではないかと考えている。

そのような事態を回避できるよう、甲府市中心街のあり方を考えるのか、あるいはそのようなことを前提に、甲府市中心街のあり方を考えていくのかでは、随分違うと思うので、そこら辺もよく議論していったほうが良いのではないかとというのが1点目である。

2点目は、これも重なるが、移住定住を促進するというのであれば、やはり10年後、20年後の情報技術の発展を踏まえ、いろいろ考えていく必要があるのではないかと。日常生活は、今と随分変わっていることが容易に想定できるし、皆さんおっしゃるように自動車の自動運転が当たり前に行われているかもしれない。日常の買い物がほとんどネット通販でできるとか、あるいは通常の決済はキャッシュレスでほぼ終わってしまうというようなことが起こっているであろう。あるいは、各種サービスなども、AIが使われることが当たり前になっているなど、今の段階でも想定されるので、そういう中で、移住定住を促進するために、どういうまちづくりをしていけば良いのかということを考えていく必要があるのではないかと。加えて言えば、そういう近未来型のコンパクトシティのようなものがある種イメージしながら、進めていくということが重要ではないかと思う。

第3は産業面での未来都市ということであるが、やはり山梨では製造業の分野にある種注力していく方が良いのではないかと考えており、先ほど話があったように、農業とか、医療福祉もあるが、やはり現状を踏まえると、生産用・業務用機械とか電気機械あるいは電子部品・デバイスといったところが山梨県で比較的優位性を持っている分野であるし、こうした分野はSociety 5.0の実現に向けて、その技術が非常に求められるところでもある。こうしたところを、対外的にも広くアピールしていくということが、山梨にとっての産業面での発展につながっていくことになるかと思う。

(後藤知事)

それでは、前半後半部分含め、部局長から先生方の御意見に対して補足、または説明しておくべき事項があれば、発言をお願いしたい。

(平賀総合政策部長)

私も総合政策部で、このリニア環境未来都市の基本計画を策定している関係で、最初に話をさせていただく。

先ほど、室長から説明いたしました中間取りまとめであるが、本年度中、明年の3月には成案として基本計画を取りまとめていきたいと思う。

その過程で今、様々な御意見を頂戴した。一つひとつ答えていくのは時間的にできないが、簡潔に申し上げると、駅そのものに関しては、将来を、10年後20年後を見据えて構想を考えていくということが大事ではないかという御意見や、あるいは本県にすでにある本県の魅力を十分に生かすということ、更には防災の観点を取り込むようにと

いう御意見をいただいたかと思う。

それから、こちらの方も大変関心が高いことが改めて今日わかったところであるが、全県への波及ということで、これについては、リニアの駅が、点ではなく山梨県の面として活用できるように、面の一つの部門として活用できるように十分今後検討していきたいと思う。

明年の3月まで、それほど時間もないが、取りまとめをしていくので、またその過程においても様々な御意見を御提案いただければありがたいと思う。

(岡リニア交通局長)

私どもは、総合政策部と一緒に環境未来都市の構築と、全県への効果の波及についていろいろ議論している中で、1点、県内のリニア駅から県内各所をどう結ぶか、それは非常に重要だという御意見があったので、その点について、少しだけお話をさせていただければと思う。

御指摘のように、リニア駅を降りた方が、その駅の周辺で全て時間を過ごされるということはないと思うので、各地域へどうやって円滑に移動していただくか、これを今一生懸命考えているところである。

道路ネットワークの整備ももちろん重要であるが、その上を走るバスネットワーク、9年後なので、自動運転のシティコミューターがビュンビュン走り回っているかもしれない。

先進技術の進歩を踏まえ、見据えて、現在のバス交通ネットワークをどうしていくか、またいろいろな形での自動運転によるコミューターをどう活用していくのか、そういったことをトータルで考え、今後交通事業者の皆さんや国や有識者、更に利用される方、いろいろな方々から御意見を伺いつつ、県として全県の二次交通をどうして行くべきか、これは鋭意検討を進めている。

すでに先進バス技術、バス交通技術等の研究を行う研究会を本年度設置して、いろいろな方々と、将来に向けた検討を進めているところであるので、また是非アドバイスや御支援をいただければと思う。

(後藤知事)

今日は限られた時間であったが、先生方からは御専門の知識・経験を生かしながら、積極的な御発言をいただき、大変感謝している。

後半の部分で榎田委員、辻村委員、そして佐々木委員からは、移住定住の促進という視点も、交流拠点だけではなくきちんと見据えるべきだと。まさにおっしゃるとおりだと思う。2年前に、リニア交通局が当時東京圏、名古屋圏の皆様方にアンケート調査した際にも、東京圏では二地域居住も含めると四割の方が何らかの形で甲府、山梨の、リニア駅周辺に、非常に強い関心があるということと、名古屋圏についても2割の方々の関心があるという結果であった。

更に付け加えると、先週の日経新聞だったと思うが、40分という移動時間の短縮を見据え、名古屋ではマンション等も準備が進んでいるとのこと。

いろいろな変化が今後、10年20年という形で進んでいる。新しい技術の変化、ま

た社会経済状況の変化というものをきちんととらえた中で、それぞれ県が全てやるという事業では当然ないので、民間の皆様方の力も十分に活用させていただいていくという前提の中で、最終案について取りまとめをさせていただきたいと思う。

今日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

4. 閉会

司会：平賀総合政策部長